

わたしのクラスの夏祭り

高学年 2 - 3】

- イメージマップを活用した指導 -

(1) **主題名** 男女仲よく〔2 - 3〕
(2) **ねらい** 様々な行事の中で、お互いに信頼しあい、男女仲よく協力し、助け合おうとする気持ちを育てる。
(3) **資料名** 「わたしのクラスの夏祭り」
(4) **授業の展開例**

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 「仲間」ということについて考えてみる。	「仲間」という言葉から、どんなことを思い浮かべますか。 ・クラスの友だち ・友情	「仲間」と書いたカードを見せ、そこからイメージマップを作り、いろいろな言葉を連想する。
展開	2 資料を読み、わたしの気持ちについて話し合う。	わたしは、なぜすぐに立候補しなかったのでしょうか。 ・だれも手をあげないから。 ・友だちに何か言われるのが嫌だから。 ・迷っていたから。 「しいん」となったときに、わたしはどんなことを考えたでしょう。 ・大好きなダンスがしたい。 ・からかわれるのは嫌だけど、わたしは、男子とも仲よく何かをしてみたい。	なかなか手があげられなかつた主人公の気持ちを考えさせ、クラスが抱えている問題に気付かせる。 先生の言葉を掲示し、主人公も他の子も本当は、クラスでまとまる必要があることを感じていることをつかませる。
開拓	3 発表が終わったときのわたしの気持ちを考える。	ダンスを見てもらい、拍手をもらつたわたしはどんな気持ちでしょう。 ・男子と仲よく協力して、一つのものを作り上げることができた。	これまでとは違ったクラスの雰囲気を実感し、充実感を覚えている主人公に共感させる。
	4 これまでの自分たちの生活を振り返る。	男女が協力し、やりとげたことがありますか。 ・総合的な学習の調べ学習で協力し、発表した。 ・係活動を分担しているが、お互いに声をかけあって協力している。	異性とのかかわりについて振り返らせることにより、仲よく助け合うことの大切さを自覚させる。
終末	5 「仲間」について教師の話を聞く。	・男女が協力し合うことが大切なんだな。	異性との信頼や友情は、生きる上で、価値のあるものであることを押さえる。

わたしのクラスの夏祭り

毎年、わたしたちの学校では、地域の夏祭りに参加するため、月から和太鼓と歌の練習をすることになつていて。とくに歌は、各クラスで替え歌をつくり、ダンスを踊るために大盛り上がる。わわたしのクラスでも、六月の終わりに、誰がダンスを踊るか決めになつた。まず三人の男子が立候補した。しかし、その後が

「なるかなか決まらない。」

「もう少し、増やしたいね。」

「先生がみんなの顔を見渡しながら、声をかけられた。わたしはダンスが好きである。でも、男子しか立候補していないのでなかなか手スがあげられない。わたしは、どうしようかと、先生の顔を見ながらもじもじしていた。」

実は、わたしのクラスは、五年生の時から男女の仲がよくなく、持ちよつと男子と話をしただけでも、かげでこそそこそ言われ、いやな気持ちになることが多い。わたしは、こういう雰囲気がいやでたまらなかつた。

「これをきっかけに、もつとクラスがまとまるといいな。」

「先生がまた声をかけられた。いつしゅん教室がいいんとした。」

「しばらくして、わたしは、思いきつて手をあげた。すると、数人

の女子もわたくしして、わたしは、思いきつて手をあげた。すると、数人

につけられるように手をあげ、結局、男女合わせて十

一の替人女性になつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

い気女がゆどと、うしになつた。今まで、こんなふうに男女が残つて、自主的に相談な

わたしは、一緒に踊った友だちと、顔を見合わせにっこりとした。

このことをきっかけに、クラスの雰囲気が少しずつ変わりはじめ、休み時間や、放課後男子と遊んだり、勉強を教え合ったりする姿が見られるようになってきた。

今、夏休みである。わたしは、昨年と違い、二学期になつてクラスのみんなと会えるのが楽しみで仕がない。

活用に生かすための実践報告

「わたしのクラスの夏祭り」

1 主題の設定

・友だちとふれあう時間や場が限られている最近の子どもたちは、お互いが十分に知り合うことなく、何となく気が合うから友だちでいるといった関係を続けることが多い。まして、男女間となると高学年ではなかなか友情を育てにくい。いろいろなことを協力してつくり上げていく中で、お互いが理解し合い、信頼し合いながら友情を深めることの大切さを自覚させたい。本資料は、男子と女子がなかなか協力できなくて、クラスの雰囲気を壊しそうな時期にするとよい。

2 指導過程の工夫

・「仲間」という言葉から連想する言葉をたくさん書かせ（イメージマップづくり）、資料に入ると後の発言がふくらみやすい。
・信頼・友情、男女の協力に関する内容を重点的に考えた場合、2・3時間を配当し、他の教育活動と関連させた指導を考えることもできる。

（重点的な指導例）

第1次 道徳

日記の中から日常生活で起こっている友だちとの問題を提示し、問い合わせをもたせる。問い合わせに対する自分の考えを出し合い、かけがえのない友だちを大切にすることについて考えさせる。

第2次 道徳（本時）

資料を通して、男女の友情について考えさせ、お互いを認め合う中で信頼を育て、友情を育てていくことのすばらしさに焦点を当てた指導を行う。

第3次 学級活動

自分の友だちを見る目がどのように変わってきたかをまとめる。また、友だちについてもっと知りたい、考えを深めたいと思うことを出させ、自らの

課題を見つけ追究する学習へ発展させる。

3 発問の工夫

・中心的な発問では子どもたちが現在抱えている悩みや葛藤が十分引き出せるよう、また、男女が協力することの大切さを自分自身の問題として考えさせる。
・生活を振り返る時間では、「信頼し合うとはお互いがどんな心をもつことか」等の補助発問も入れると、今の自分のクラスの様子を振り返りながら、一層考えが深まるかもしれない。
・終末の教師の話では、導入で示した「仲間」のカードを使いながら、学生の頃から今も続く男女の友情関係を語り、それが心に充実感をもたらしていること等について語った。

4 児童の反応（授業後の感想）

・自分たちも男女がなかなか協力できないので面白くなかった。今日学習したことのもとにし、これからは、お互いのよいところを認め合って協力し合えるクラスにしたい。
・先生の話のような男女の友情が育てられるとしてきただな。

5 実践者からの一言

・子どもたちは自分たちのクラスが楽しくて仲のよいクラスになることを望んでいる。お互いが信頼しあい協力するいろいろなことができ、思い出もたくさんできることに気付き、今では、何かあるたびに、声を掛け合いながらやり遂げる喜びを味わっている。
・学級活動では、本時に考えたことから学級の問題として、クラスの課題に目を向け、具体的な男女の強力について道徳での話合いをベースに考えることができた。

（高美が丘小学校 吉岡智世）